

企画展

はじめての 古美術鑑賞

— 絵画のテーマ —

蓮×舟上人物

しゅうもしゆく

〔周茂叔〕

周茂叔は中国・北宋の大儒学者「愛蓮説」を著し、蓮を終生にわたって愛したことで知られる。



巻物×笑顔
かんざん

〔寒山〕



蘆×蟹
りっしんしゆつせ

〔立身出世〕



雪玉遊び×
平安貴族
げんじ
ものがたり

〔源氏物語〕



茄子×根菜
はんそん
はんえい

〔子孫繁栄〕



Museum Collection Exhibition

Introduction to Traditional Art: The Subjects of Paintings

2019年5月25日(土) - 7月7日(日) 根津美術館 NEZU MUSEUM

日本の古美術は、西洋美術と比べて敷居が高いうえ地味で分かりにくい、と思われている方も多いのではないのでしょうか。これらの声に応じて、根津美術館では2016年に「はじめての古美術鑑賞—絵画の技法と表現—」を開催し、好評を得ました。今回はシリーズの4回目として、近世以前の日本絵画の「テーマ」を知るための展示を企画いたしました。

日本での本格的な絵画制作の黎明期である飛鳥・奈良時代（7～8世紀）の遺品は少なく、わずかな例外を除くとそのほとんどが仏教関係の作例となっています。この状況は平安時代に入っても続きますが、平安時代後期（11世紀）以降、王朝文学が盛んになると、多くの物語絵巻が描かれて隆盛を迎えます。その後、鎌倉時代後期（13世紀）になると、禅の興隆とともに、中国からもたらされた禅宗関係の人物画などが多数描かれるようになり、やがて室内を飾る屏風や襖にも中国の故事などが採用されることが一般的になりました。今回は、日本における絵画のテーマの変遷をたどりながら、水墨画の作例を中心に、様々な絵画の主題をご紹介します。なかには一目見ただけでは分かりにくいものもありますが、この展覧会でその意味を知ること、より深い作品理解へと繋がれば幸いです。

上：重要美術品 周茂叔愛蓮図（部分） 伝小栗宗湛筆 日本・室町時代 15世紀 根津美術館蔵
帯左より：寒山拾得図（左幅・部分） 雪村周継筆 日本・室町時代 16世紀 栃木県立博物館蔵 / 蘆蟹図（部分） 伝牧谿筆 中国・元～明時代 14世紀 根津美術館蔵
源氏物語朝顔図（部分） 土佐光起筆 日本・江戸時代 17世紀 根津美術館蔵 / 蔬菜図（部分） 啓孫筆 日本・室町時代 16世紀 根津美術館蔵

根津美術館
NEZUMUSEUM



はじめに

＜奈良時代は仏画ばかり＞

下段に経文を書き、上段に対応する絵を描く「^{え か こ げんざい}絵過去現在因果経^{いん がきょう}」を、鎌倉時代に新写したもの。山水表現などはこなれているが、楼閣は奈良時代の古様をよく伝えている。



重要文化財
^{え か こ げんざい いん がきょう}絵過去現在因果経
慶忍・聖衆丸筆
1巻 紙本着色
日本・鎌倉時代 建長6年(1254)
根津美術館蔵

第1章 物語絵の世界

＜雪玉遊びは「源氏」のしるし＞



^{げんじものがたりあさがお ず}源氏物語朝顔図
土佐光起筆
1幅 絹本着色
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

庭で雪玉遊びをして戯れる童女たちを眺めながら光源氏と紫の上が語り合う姿は、『源氏物語』「朝顔」の名場面として知られる。土佐派を再興した光起による逸品。

第2章 禅宗の人物画と神仙たち

＜^{かんざん ほうき じつとく}笑顔に巻物は寒山、箒は拾得＞



^{かんざん ほうき じつとく ず}寒山拾得図
雪村周継筆
2幅 紙本墨画
日本・室町時代
16世紀
栃木県立博物館蔵

寒山と拾得は禅宗で尊ばれた人物の代表格。通常不気味な笑顔の奇人として描かれる。本作は誇張された体軀や大胆な筆致で奇矯さをより強調した、雪村らしい作例。

第3章 中国の故事人物画

＜^{そとうぼ}明月と鶴は蘇東坡の名作＞



^{せきへきずびょうぶ}赤壁図屏風
^{たにぶんちやう}谷文晁筆
6曲1双 紙本着色
日本・江戸時代 19世紀
根津美術館蔵



切り立った崖のそばで舟の上の人物が初秋の明月を賞し、冬には一羽の鶴に出会う組合せは、北宋の詩人・蘇東坡の「赤壁賦」を表す。険峻な断崖と華やかな金雲との対比で、豊かな詩情を幻想的に描いた文晁の名作。

第4章 自然へのまなざし

〈実は野菜はめでたいテーマ〉



そさいず
蔬菜図
啓孫筆

1幅 紙本墨画
日本・室町時代 16世紀
根津美術館蔵

茄子や根菜は豊かな実りをもたらすことから、豊穰を表すとともに子孫繁栄の象徴でもある。日本では中世以降に多数描かれるが、その源流は南宋の画僧・牧谿とされる。

〈四つの花は文人の象徴〉

四愛とは中国の4人の高名な文人が愛した花々のことで、梅は林和靖、菊は陶淵明、蓮は周茂叔、蘭は黄山谷を象徴する。日本の文人が憧れ親しんだ主題で、多くの作例がのこされている。



しあいず
四愛図(部分)
椿椿山筆

1幅 絹本着色
日本・江戸時代 天保13年(1842)
栃木県立博物館蔵

- ・一ノ谷・須磨・明石図 高嵩谷筆
3幅 絹本着色 日本・江戸時代 18世紀 個人蔵
- ・重要文化財 羅漢図
1幅 絹本墨画 中国・南宋～元時代 13-14世紀 根津美術館蔵
- ・朱衣達磨図 江月宗玩賛
1幅 絹本着色 日本・室町時代 16世紀 栃木・長林寺蔵

その他の主な展示作品

- ・青花百仙文壺 景德鎮窯
1口 中国・明時代 16世紀 根津美術館蔵
- ・富嶽図 仲安真康筆
1幅 紙本墨画 日本・室町時代 15世紀
根津美術館蔵 小林中氏寄贈

展示室5

茶席の書画

根津青山の茶会

茶席では、趣向に合わせてさまざまな書や絵が掛けられます。今回は根津美術館のコレクションの礎を築いた、根津青山(初代 嘉一郎)の茶会で用いられた作品を中心に展示します。



重要文化財
げつかんぶんみょう ねんこうご
月礪文明墨蹟 拈香語
1幅 紙本墨書
中国・元時代 13-14世紀
根津美術館蔵

中国の禅僧・月礪文明が、弥天和尚の仏事のために書いたもの。青山は、亡くなった茶友を偲ぶ茶会を催し、この墨蹟を掛けた。

大津の宿駅で荷を運ぶ馬を描いた一幅。明治43年(1910)に青山が入手した際、すでに茶人の間では名品として知られていたが、披露したのはその18年後のことであった。



おおつうます
大津馬図
しょうかどうしょうじょう
松花堂昭乗筆 沢庵宗彭賛
1幅 紙本墨画
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

同時開催展

展示室6

雨中の茶の湯

梅雨時、茶の湯では雨や水に因んだ道具を使い、その風情を楽しみます。戸外の雨音に耳を傾けながら、季節の取り合わせをご鑑賞ください。



こそめつけて おけみずさし
古染付手桶水指
景德鎮窯
1口 施釉磁器
中国・明時代 17世紀
根津美術館蔵

木製の手桶を模した古染付の水指。縦方向の染付線は側板を、横方向の凸帯は箍をあらわし、その間に魚や蟹、雲鶴文が描かれている。



あまもりちやわん うどんげ
雨漏茶碗 銘 優曇華
1口 高麗茶碗
朝鮮・朝鮮時代 16世紀
根津美術館蔵

所々にあらわれた沁みを雨漏と呼ぶ。本茶碗はその景色の珍しさから、三千年に一度花を咲かせるという「優曇華」の銘がつけられた。

関連プログラム

講演会 「絵画のテーマをよみ解く」
講師：島尾 新氏（学習院大学教授）
日時：6月15日(土) 午後2時～3時30分
会場：根津美術館 講堂
定員：130名

特別催事 「落語を聴く会」
出演：立川 談慶氏（落語家）
日時：6月29日(土) 午後2時～3時30分(予定)
演目：「抜け雀」(予定)
会場：根津美術館 講堂
定員：130名

〈申し込み方法〉 当館ホームページの「イベント情報」の申込みフォームから、または往復はがき(1参加者につき1枚)に参加を希望されるプログラム名・住所・氏名(返信面にも)・電話番号を明記の上、
〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1
根津美術館講演会係宛
にお送りください。
※講演会は5月15日(水)、特別催事は5月29日(水)いずれも午前10時より受付開始(往復はがきは当日の消印より有効)。
※先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。

スライドレクチャー 「日本絵画のテーマを知る」
日時： 第1回:6月 7日(金)
第2回:6月21日(金)
講師：本田 諭(当館 学芸第二課長)
会場：根津美術館 講堂
定員：130名

※内容は第1回、第2回ともに同じです。
※毎回午後2時より45分間程度。開始の15分前より開場。
※事前申込不要。先着順で定員(130名)になり次第締め切らせていただきます。

開催 概要

展覧会名 企画展「はじめての古美術鑑賞—絵画のテーマ—」
主催 根津美術館
開催期間 2019年5月25日(土)～7月7日(日)
開館時間 午前10時～午後5時
[入館は午後4時30分まで]
休館日 毎週月曜日
入館料 一般1100円(900円) 学生800円(600円)
()内は20名以上の団体料金、
中学生以下無料
前売券 一般900円 学生600円
※2018年4月13日(土)～5月12日(日)「尾形光琳の燕子花図—寿ぎの江戸絵画—」展開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売
アクセス 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベータまたはエスカレーター)より徒歩10分
住所 〒107-0062 東京都港区南青山 6 - 5 - 1
お問合せ TEL 03-3400-2536 (代表)
<http://www.nezu-muse.or.jp>

〈記者内覧会のご案内〉

上記展覧会の記者内覧会は、2019年5月24日(金)午後1時30分より開催予定です。ご案内ご希望の方は、当館広報課へご連絡ください。

次回展

企画展

優しいほとけ・怖いほとけ

2019年7月25日(木)～8月25日(日)



右:愛染明王像
日本・江戸時代 17世紀
左:阿弥陀三尊来迎図
日本・鎌倉時代 14世紀
いずれも根津美術館蔵

優しく導く如来や菩薩、厳しく戒める明王や天。
さまざまな救済の姿を鎌倉～江戸時代の木彫と絵画を中心に
ご覧いただけます。

〈リリース・広報のお問い合わせ〉

根津美術館 広報課：所、村岡 TEL:03-3400-2538 (直) E-mail: press@nezu-muse.or.jp

※本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報はお問い合わせください。(2019.3.)